

# 伊那谷広域交流圏 ～年間1,000万人以上が交流する伊那谷～ の実現を目指して

## リニア整備がもたらす交流人口の増加のチャンスを活かして

県南に位置する上伊那・飯伊地域は、天竜川を中心に周囲を中央アルプス、南アルプスなどの雄大な山々に囲まれており、JR飯田線の存在や中央自動車道の開通などにより経済が活性化し、大きく飛躍してきた歴史があります。

そして21世紀初頭の今、平成39年（2027年）と間近に迫ったリニア中央新幹線の開業は、国内外との交流の拡大や地域の活性化など、将来の発展の起爆剤となることが期待されています。

平成25年（2013年）9月、JR東海が「中央新幹線（東京都・名古屋市間）環境影響評価準備書」においてルート及び長野県駅の位置を示し、平成26年（2014年）10月には国土交通大臣が工事実施計画を認可して、リニア中央新幹線の整備がスタートしました。

リニア中央新幹線の開業は巨大都市圏や海外とのアクセス機能を向上させ、これまで都会から短時間でのアクセスが困難だった地域への人の流れを生み出します。高度な都市生活と大自然に囲まれた環境が近接した新しいライフスタイルが実現し、交流人口の拡大や移住の促進、国や民間企業の施設・機能の移転など人・企業の移動が見込まれます。

この効果を最大限活かし、地域の活性化を生み出すために、上伊那・飯伊地域では、「伊那谷広域交流圏」の実現に向け、取り組んでいきます。

## 交流人口の増加を目指す伊那谷の取り組みについて

伊那谷広域交流圏の実現に向けて、上伊那・飯伊地域の各エリアで、交流人口の増加を目指す取り組みを進めます。

巨大都市圏・海外との時間距離が短縮し、都市圏ビジネス客、観光客が増加



## 将来戦略 「伊那谷広域交流圏 ～年間1,000万人以上が交流する伊那谷～ の実現」

目指す目標 「心安らぐ多様な生き方を提供する 来たい・住みたい伊那谷」

### 飯田エリア 新たな企業活動への支援とまちなか観光、農業体験による交流拡大に向けた取り組み

#### 【代表的な取り組み】

「航空宇宙産業クラスター」の形成

- 産官連携により、熱処理などの特殊工程等を行う南信州・飯田産業センター航空宇宙産業クラスター拠点工場を整備し、航空宇宙産業における一貫生産体制の構築を目指す。
- アジアNO.1航空宇宙産業クラスター形成特区への参入により、関連する企業の事業環境を整備して航空宇宙産業の発展を目指す。



ビジネス利用の増加のために(企業活動への支援)

### 伊那エリア アグリビジネスや新たな居住提案と農業・高原体験による交流拡大に向けた取り組み

#### 【代表的な取り組み】

産・学・官の連携による伊那谷アグリイノベーション事業

- 信州大学農学部を中心とした伊那谷に位置する大学の知財を活用した産学官連携
  - 信州大学農学部が蓄積してきた様々なシーズを企業や各種団体のニーズと結びつけ、産学官連携の取組を強化し、この地域のグローバル化を牽引、今後、重点項目をはじめとした信州ブランド化を目指す。
- 移住・定住促進プログラムの推進
- 移住・定住者のフォローアップのため、移住・定住のトータルコーディネーターと地域暮らしのノウハウを伝える。定住マイスターを配置し、移住・定住者の地域活動への参加や活躍のできる場の創出を図る。

ビジネス利用の増加のために(アグリビジネスの進化)

新たな居住の提案のために(ライフスタイルの多様化)

### 下伊那西部エリア 屋神温泉と農業体験による交流拡大に向けた取り組み

### 下伊那南部エリア 祭り街道と滞在型農家体験による交流拡大に向けた取り組み

#### 【代表的な取り組み】

クラインガルテン新野高原

- 滞在型賃借農地「クラインガルテン」に滞在する都市住民との交流の中から地元産物の消費拡大や新野の雪祭り、盆踊りなど地域の伝統行事への参加を促し、都市の持つ活力を吸収して地域を活性化

ビジネス利用の増加のために(アグリビジネスの進化)

### 駒ヶ根エリア 中央アルプス観光と健康・国際交流に向けた取り組み

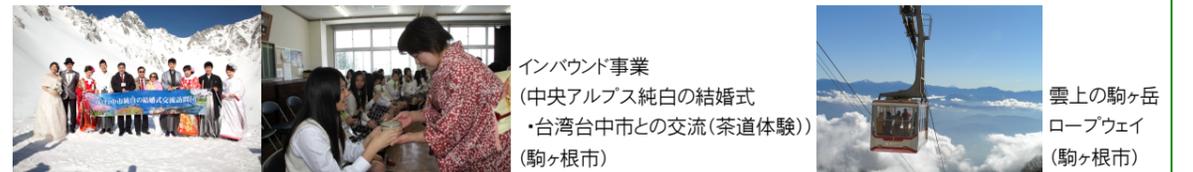
#### 【代表的な取り組み】

中央アルプス山麓開発と台湾をターゲットとしたインバウンド事業

- 中央アルプスロープウェイと駒ヶ根高原の一体的な魅力づくり(観光ゾーン整備)
- JICA訓練所の所在地として、国際交流の拠点となる大使村の整備(国際交流ゾーン)
- H24よりインバウンド事業として駒ヶ根市が台湾へ台湾誘客交流団を派遣

民間事業者と連携した中央アルプス観光の取り組み

- 中央アルプス観光(株)による駒ヶ岳ロープウェイを活用した登山や高山植物体験などの観光誘客
- 中央アルプス千畳敷で行う「中央アルプス純白の結婚式」に台中市からのカップル2組が参加



新たな観光客呼び込みのために

### 遠山谷エリア 南アルプスと遠山郷での交流拡大に向けた取り組み

### 南アルプスエリア 南アルプス観光による交流拡大に向けた取り組み

#### 【代表的な取り組み】

南アルプスジオパーク・ビジターセンター等の整備

- 南アルプス山岳観光、気の里、鹿嶺高原など豊富な観光資源を有する長谷地区を中心に総合的な観光情報発信基地として「南アルプス長谷ビジターセンター」を開設
- 今後、サテライト基地や登山小屋、登山道の整備、ジオパークガイドなどの人材育成により更なる機能強化
- 自然エネルギーを利用し完全循環式浄化槽トイレを備えた仙丈小屋を活用し、南アルプス観光の受け入れを強化



新たな観光客呼び込みのために

## 伊那谷広域交流圏の実現のために

上伊那・飯伊地域の各エリアでの取り組みを活性化し、伊那谷広域交流圏を実現するためには「取り組みを知ってもらうための情報発信」「取り組み拠点への時間距離の短縮や様々な方法での移動のための 高速性・定時性・円滑性・多様性をもった交通ネットワークの構築」が課題となります。

上伊那・飯伊地域では、「伊那谷広域交流圏」の実現に向け、更にこれらの課題解決のために次の5つの取り組みを進めます。

### 情報の発信に向けた取り組み

#### 【課題】

- ・特に観光における情報の一元化と発信が必要
- ・伊那谷地域ならではの多様性のある観光メニューの整理が必要
- ・国内外の来訪者にわかりやすい標識などの整備が必要



#### 【具体的な取り組み】

- ・観光情報の一元化と発信に向け、広域的な連携に取り組みます。
- ・長野県が新たに整備した首都圏総合活動拠点(銀座NAGANO~しあわせ信州シェアスペース~)を活用した観光情報の発信など、様々な手段・手法を用いた誘客活動の推進に取り組みます。
- ・伊那谷地域の特色を活かした、多様な観光ルートの構築に取り組みます。
- ・交通案内やパンフレットの多言語化やユニバーサルデザイン化、また統一された公共サイン等の整備に向け取り組みます。
- ・木曾地域や諏訪地域、松本地域、遠州・三河地域との広域連携に取り組みます。



案内地図・誘導サインなど統一された公共サインの例(岐阜県中津川市)

### 高速道路との連携に向けた取り組み

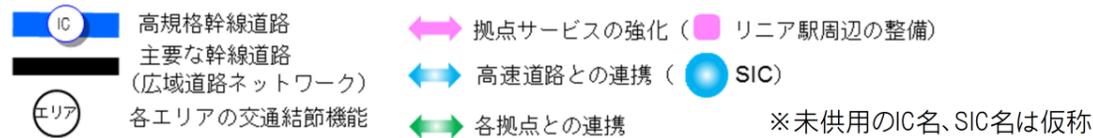
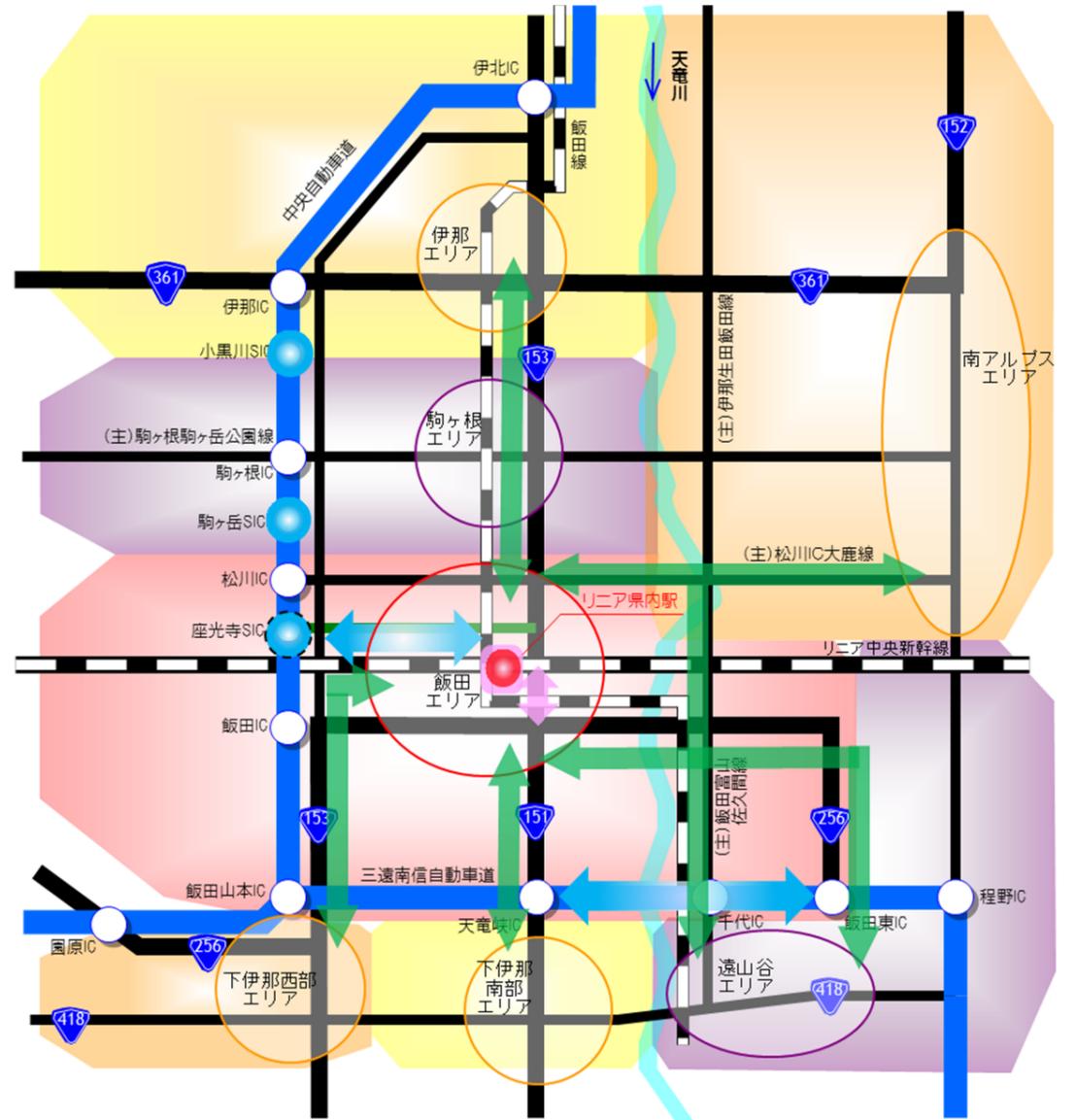
#### 【課題】

- ・高速道路を活かし、取り組み拠点への自由な移動の確保やリニア駅への移動の高速性を確保することが必要



#### 【具体的な取り組み】

- ・三遠南信自動車道等の整備を進めます。
- ・リニアによる大都市圏との時間短縮効果をより広範囲に拡大させるため、高速道路とリニア駅を直結させます。
- ・高速道路の結節点を増加させ、地域間の時間距離を短縮するために既存のサービスエリアやパーキングエリアにスマートインターチェンジを設置する取り組みを進めます。
- ・高速バスの路線や本数拡充など利便性向上のため高速バス会社と協議します。



### 各拠点との連携(ネットワークの整備)に向けた取り組み

#### 【課題】

- ・様々な取組拠点を円滑に結ぶネットワークの形成が必要
- ・地域外との交流拡大、地域内の連携強化、リニア駅の利便性向上を図ることが必要



#### 【具体的な取り組み】

- 「広域道路ネットワーク」の構築
  - ・ 地域外との交流を拡大します
  - ・ 地域内の連携を強化します
  - ・ リニア駅の利便性を向上します

### 拠点サービスの強化に向けた取り組み

#### 【課題】

- ・様々な拠点への移動のため、多様な移動手段を円滑に活用できる交通結節機能を持ったリニア駅及び駅周辺整備が必要
- ・効果的な移動のため、各エリアにそれぞれ交通結節機能が必要
- ・高速バスの路線や本数拡充など利便性向上の取り組みが必要
- ・交通結節点の整備によりバスの利便性を高める取り組みが必要



#### 【具体的な取り組み】

- ・リニアからの乗換えを容易とする交通広場の整備を進めます。
- ・長野県駅周辺の交通混雑を緩和するための道路整備を進めます。
- ・電車とバス、タクシーや車などの連携をスムーズにする総合的な「交通結節点」となるリニア駅、駅周辺の整備を「リニア中央新幹線を地域振興に活かす伊那谷自治体会議」等を活用して検討します。
- ・各エリアにおける総合的な「交通結節点」の整備を検討します。
- ・伊那谷地域内の取り組み拠点を連携する公共交通(路線バス・直行バス高速バス)の路線確保に取り組みます。
- ・JR飯田線と高速バス、路線バスなどの増便やダイヤの整理など、定時性の確保に向け各交通事業者に働きかけます。

### JR飯田線との連携に向けた取り組み

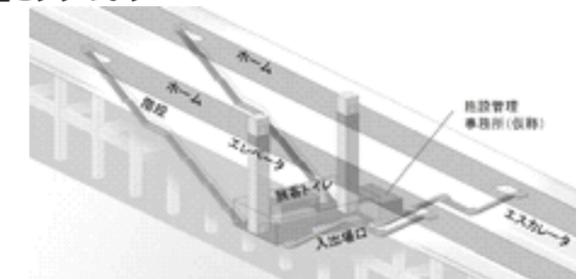
#### 【課題】

- ・拠点を結ぶ在来線(JR飯田線)を活かし、地域内の多様な移動を支えることが必要



#### 【具体的な取り組み】

- ・在来線(JR飯田線)への新駅設置の検討など、新たにできるリニア駅と在来線との円滑な乗換えの実現により、来訪者が鉄道を利用し、各拠点へ円滑に移動できるよう取り組みます。
- ・鉄道利用による移動の円滑性の確保のため、リニア中央新幹線のダイヤと合わせたJR飯田線の運行や営業本数の拡充など、利便性向上、快適性等の確保について営業主体であるJR東海との調整をすすめます。



リニア中央新幹線中間駅のイメージ(JR東海)